

第10回全国高等学校情報教育研究会全国大会（東京大会）

—これまでの10回の全国大会を振り返る—

三重県立津商業高等学校 世良 清

1. はじめに

第10回全国高等学校情報教育研究会全国大会（東京大会）は、「情報教育に関わるすべての人へ」をテーマに、2017（平成29）年8月9日（水）、10日（木）の2日間にわたって、東京都調布市の電気通信大学を会場に開催された。394名の参加者を迎え、10回目の節目となる記念大会となった（写真1）。2008（平成20）年8月に第1回全国大会が開催されて以来、10回目を迎えたことを「情報教育に関わるすべての人」で祝したい。

2. 第10回東京大会の概要

2.1 開会行事

開会行事は、神奈川県立二宮高等学校長 佐々木修先生の開会の言葉で大会の幕が開き、全国高等学校情報研究会会長である東京都立町田高等学校長 牛来峯聡先生の挨拶、来賓として、東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 藤井大輔先生、電気通信大学情報理工学域長の小花貞夫先生から、ご祝辞をいただいた。

2.2 基調講演

基調講演は、大阪大学大学院情報科学研究科特

任教授 萩原兼一先生を迎え、「文部科学省大学入学者選抜改革推進受託事業『情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発』と題してご高話いただいた。情報教育が、領域教育か

ら学習指導要領に定める正規の教科教育として位置づけられ、10年余りが経過した。学習評価は一層重要なものとなり、大学入学者選抜とも大きなかわりを持つ。今後の試験制度の改革を睨んだ貴重な講演であった。

2.3 分科会発表

分科会発表は、4会場、延べ32件が行われた（写真2）。発表テーマ（表1）



写真2 分科会発表の風景

は、情報教育にかかわり多岐にわたったが、プログラミングや情報セキュリティに関する内容が一層顕在化した。発表者の所属は高校が30件、大学が2件。高校を都道府県別に数えると、千葉3、埼玉4、東京7、神奈川8、静岡1、愛知2、富山1、大阪2、兵庫1、和歌山1と、ばらつきはあるものの、東京大会と称するに値すると言えよう。

表1 分科会発表テーマ

- 1) 日常生活をより深く考える情報科の授業
- 2) 触れて聞いて見て楽しむ普通科プログラミング教育
- 3) SNSとの向き合い方
- 4) 共通教科情報科ルーブリックにおける思考・判断・表現の位置づけ
- 5) 生徒による国際情報科学コンテスト・ビーバーチャレンジの問題作り
- 6) DNCLのWeb上での実行環境の開発
- 7) アンケート調査の分析結果で検討するネット依存とその指導の考察
- 8) 暗号を解読せよ
- 9) 人型ピクトグラムを用いたCSアンブラグドの統一学習環境の提案
- 10) プログラミングのアンケートと体験授業の紹介
- 11) 「情報セキュリティ」授業実践報告
- 12) PBLによるプログラミング教育の実践報告
- 13) 「情報I（仮称）」でこそアンブラグド
- 14) 映像教材を利用したプログラミング教育の一手法
- 15) IPA新試験対応の授業実践の効果と産学官連携したセキュリティ人材教育



写真1 大会記念冊子

- 16) ドリトル言語でのデータ処理機能の対応
- 17) 人物調査の総まとめをNAVERまとめでまとめさせてみた
- 18) Field tripを活用したプログラミング教育
- 19) RESASを活用した問題解決型学習
- 20) ray-tracingによる3DCGの応用
- 21) オープンデータを活用した地域貢献アプリ
- 22) これからを見据えた「プログラミングで教える」をテーマにしたプログラミング実践
- 23) 問題解決型学習の指導と評価
- 24) PICマイコンを利用した信号制御教材の製作とプログラミング教材の試作
- 25) 実際の授業実践から見える情報科における統計分野の実践と課題
- 26) プログラミングに関するアンケート調査
- 27) 学びを加速するメソッドを取り入れた授業デザイン
- 28) プログラミングで基数変換の仕組みを理解しよう
- 29) 「発想」を考える
- 30) プログラミングに関する授業実践報告
- 31) ICTを活用した授業改善
- 32) プログラミング的思考を育てる情報科の授業

2.4 ポスター発表

ポスター発表(写真3)は、33件の展示・発表が行われた。高校は千葉1, 東京2, 神奈川3, 三重1, 京都1, 大阪1の計9件と、会場である電気通信大学の各研究室をはじめとする10大学21件, 各種研究団体3件の, 多彩な顔ぶれとなった。発表テーマ(表2)は, 多岐にわたる内容であった。

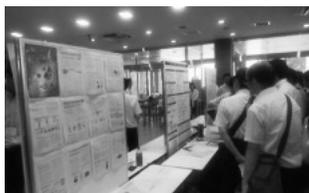


写真3 ポスター発表の風景

エアコンが効かないほどに熱気あふれる会場に, 情報交換やディスカッションする光景が繰り広げられた。

2.5 パネルディスカッション

パネルディスカッションは, 基調講演の講演者の萩原兼一先生と, 東京都市大学付属中学校・高等学校の神藤健朗先生, 神奈川県立横浜翠嵐高等学校の三井栄慶先生, 大阪府立岬高等学校の加藤光先生をパネリスト, 東京都立町田高等学校の小原格先生をコーディネータに, 「来るべき情報入試を考える」をテーマに実施された。情報教育が教科化し, 情報入試にかかわる喫緊な課題が報告され, 熱心な議論が進んだ。

2.6 文部科学省講演, 講評・講演

文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室長 初等中等教育局視学官の安彦広斉先生

から, 「次期学習指導要領の改善の方向性について～情報教育に期待されていること～」と題した講演, その後, 情報教育振興室教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 表2 ポスター発表テーマ

- 1) 文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業情報分野の活動内容
- 2) 変化する社会への適応力を涵養する著作権法の教育実践
- 3) 知的財産の学習教材の開発
- 4) 人型ピクトグラムを用いたCSアンブラグドの統一学習環境の提案
- 5) ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価～特別研究指定校を終えて～
- 6) 女子高生が観察してみた。
- 7) プログラミングの考え方を学んで未来を創る力を手に入れる『探求型プログラミング学習(探プロ)』
- 8) 国内750大学における情報教育の実態調査報告
- 9) 状態遷移図によるゲーム・プログラミングの実践事例
- 10) ドリトルを活用したデータサイエンス授業の提案
- 11) プログラミング的思考を超えて一定量の分析からの考察一
- 12) 「コンピューテーショナル思考」の定義を理解する
- 13) Bit Arrowを用いたネットワークの学習教材の開発
- 14) 専門学科「情報科」?!とスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)
- 15) 大学入学時における情報リテラシーの実態と情報系科目のPBL化
- 16) PBLによる操作教育を超えた情報リテラシー科目の実践事例
- 17) プログラミング教育 ～これまでの4年間の取り組み～
- 18) 矛盾する複数の文章の読解を通した情報リテラシー教育の授業実践
- 19) 小中学生に対するプログラミング入門講座の試み
- 20) アンブラグドプログラミング及びプログラム実行環境の提案
- 21) LINEトラブルをトーク事例で表現しよう
- 22) 専門学科におけるDTPソフトを用いた実習の紹介と作品の展示
- 23) 情報をまるで生物のように扱って進化させる面白い計算方法について
- 24) 情報系でとんがった人材の育成を目指す『情報工学工房』のご紹介
- 25) 学生の批判的思考スキルによるタイプごとの要因構造の分析・検討および学習支援システムの提案
- 26) プログラミング言語・プログラミング教育・情報教育に関連する研究
- 27) プログラミング学習支援、教科情報と大学入試に関する研究
- 28) 中学校高等学校での使用を視野に入れたICT教材作成について
- 29) eポートフォリオを活用した自己学習および自己・相互評価について
- 30) 高校の学習から高度な専門技術の教育までをシームレスにつなぐ教育プログラムについて
- 31) 人文社会科学, 理工学, 農学を学ぶ学生が協働して取り組む実践的な教育プログラムについて
- 32) 多様なバックグラウンドを持つ入学学生に対する基礎情報科目の取り組み
- 33) 高校生のための人工知能入門
～コンピュータ大貧民大会に参加しよう

教育課程調査官鹿野利春先生より、本大会のご講評、ご講演をいただいた。

2.7 閉会行事

本大会を締めくくる閉会行事では、大会事務局長である東京都立神代高等学校の山本博之先生の挨拶、次期開催地秋田県からの挨拶と続き、最後に研究会会長 牛来峯聡先生の閉会の言葉で、大会の幕を閉じた。

3. これまでの10回の全国大会を振り返る

3.1 開催概要

これまでの10回の全国大会の開催日、会場、大会テーマを集約した(表3)。テーマの変遷は、情報教育の進展や開催地の取り組みが簡潔に表現され、大変興味深い。

表3 全国大会一覧

回	開催日	会場	大会テーマ
1	2008(平成20)8.22	武蔵工業大学	Next Stage 一新たに広がるネットワークの構築—
2	2009(平成21)8.24	筑波学院大学	ICTコンパス ~あふれる情報の波をのりこなす~
3	2010(平成22)8.20-21	金沢工業大学	「ICTコンパス」 ~新たなる風~
4	2011(平成23)8.5-6	大阪経済大学	ICTコンパス ~風を受け新たな一歩を踏み出す~
5	2012(平成24)8.10-11	東京情報大学	情報教育の未来をデザインする
6	2013(平成25)8.9-10	京都大学	教科「情報」11年目の進展 ~情報教育の深化~
7	2014(平成26)8.12-13	東洋大学	「輝く未来を創る情報教育」 ~新しいメディアへアプローチ~
8	2015(平成27)8.10-11	宮崎公立大学	地域課題に向き合う情報教育 ~地方からの挑戦~
9	2016(平成28)8.8-9	専修大学	情報教育の本質を見極める ~挑戦し続ける現場からの発信~
10	2017(平成29)8.9-10	電気通信大学	「情報教育に関わるすべての人へ」

3.2 発表者数の動向

分科会発表、ポスター発表者数を、都道府県別に整理した(表4)。北海道から沖縄までの拡がりがあるが、首都圏、東海・近畿圏の集中がみられ、都道府県数は31にとどまっている。全国的な普及は今後の課題であろう。

4. おわりに

本報告は、第10回記念大会にあたり、本大会の概要を報告するとともに、これまで10回の研究大会を振り返ってみた。既存の教科とは全く異なる新しい概念を持つ教科情報の創設は、おそらく極めて困難な場面とそれを克服する関係者の努力が

表4 第1回から第10回大会までの都道府県別発表者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
	分科 ポス									
北海道								1	1	1
青森県										
岩手県										
宮城県	1	1		1			1			
秋田県					1					
山形県										
福島県									2	1
茨城県	1	1	1	1	2	1	1	3	2	2
栃木県								1	1	1
群馬県									1	
埼玉県	3		3	2	2	3	2	4	2	1
千葉県	2		5	1	1	1	1	3	3	3
東京都	5	2	3	4	3	3	4	6	5	8
神奈川県	3	5	4	1	1	2	3	1	5	3
新潟県										
富山県										1
石川県		1		1	1	1		1	1	
福井県										
山梨県	1									
長野県										
岐阜県					1					
静岡県	1	2			1					1
愛知県				1	1	1	1	2		1
三重県		1	1			1	1	1	1	1
滋賀県					1	1	1	2	1	
京都府						1	3	1		2
大阪府	1	2	5		5	4	6	2	6	5
兵庫県		1	1	1	1	1	1	1	1	1
奈良県							1			
和歌山県							1			1
鳥取県								1	1	
島根県										
岡山県			1						1	
広島県										
山口県		1		1	1	1	1	1	1	1
徳島県										
香川県										
愛媛県										
高知県										
福岡県					1				1	
佐賀県										
長崎県										
熊本県										
大分県									1	
宮崎県									1	
鹿児島県									1	
沖縄県							1	1	1	
海外			1							

あったと想像するに難くない。こうして全国大会が継続されてきたことにも敬意を表したい。

この機会に、次の10回に向けての課題も顕在化してきた。全国的な普及は、主催者としては運営労力の分担と各地への普及推進、参加者にとっては、研究会ツーリズムなどの利点もある。次回の第11回全国大会は、秋田県での開催と決まった。初の東北地方での開催であり、全国大会としての役割が一層明確化されることだろう。